

教職員の皆さまへ

新型コロナウイルスの感染対策に係る臨時休業措置の中、日々教育活動への御尽力ありがとうございます。

京都府教育委員会では「京都府教育委員会からの挑戦状」と題して、長期の学校臨時休業中に取り組むことができる児童生徒の皆さん向けの課題を作成しました。御活用いただければと思います。

さて、ここではこの課題を作成させていただきました意図をご説明させていただきます。

今回の臨時休業措置が長引き、通常の授業が進められない中で我々が考えたことは、児童生徒の学びの障壁になるのは、①知識・技能を得る機会が減る、②思考・判断・表現の道筋を援助する機会が減る、③自己の学びに向かう力・人間性等を向上させようとするモチベーションが保てない、といったことに集約されました。

そのような、①～③の課題を解消できないか、また合わせて、今般の緊急事態の中から見えてきた児童生徒が将来に渡って必要となる力を付けていくことができないか、という視点から、この状況下でできることを考えました。その結果、作成したものが今回の「京都府教育委員会からの挑戦状」です。

このコンテンツの作成にあたっては、今後、学校再開後を想定した時、子ども達に必要なのは授業時間が少ない中で「頑張り抜く力」があるかどうか、大切な要素になってくるのではないかと、という思いを持って、「認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ」視点を大切にした学習プログラムを目指しました。

まず、認知能力の育成（①および②の一部の課題解消）には、それぞれの教科を単元や内容のまとまりごとに捉えるとともに、普段の授業をイメージした課題（★★☆☆）を設定することによって、児童生徒の知識・技能の獲得を能動的に行えるようにしています。また、苦手意識のある場合や、取り組みにくい状況にある児童生徒に対して必要に応じて課題（★☆☆☆）を示しています。その上で、単元や内容のまとまりのまとめにあたる課題（★★★☆☆）が設定され、②の課題の解消を目指しました。

その上で、自分自身や自分の将来と学びとの繋がりを意識できる課題（★★★★）を設定することによって、「学びの意味や意義」を感じられるようにしています。その上で、これまでの★☆☆☆～★★★★☆の課題を★★★☆☆に繋がるように設定することによって、目的意識を持ちやすく③の課題の解消に繋げていくことを可能にしました。

長期に渡る臨時休業に係る学力の保障を考える際に、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成はもちろんのこと、より時間をかけて取組まなければならない学びに向かう力・人間性等を涵養することを目指すことはとても重要なことであると考えています。また、この長期の臨時休業で学ぶ意味や意義を意識、無意識に関わらず感じることは、学校再開後の児童生徒の学びに大きく関わってくるのではないのでしょうか。

今回の課題作成については、単元及び内容のまとまりの最終（★★★★の課題）に課題解決型学習（PBL）の手法を活かした課題を設定しています。（単元等によっては設定がなかったり、他の単元と合わせて課題を作ったりしているものもあります）ですので、正解が一つに定まらないものもあります。その課題に向けて、★☆☆☆～★★★★☆の課題も作成していますので適宜御活用いただければと思います。また、★☆☆☆から順番に取り組んでもらう必要はありませんし、課題の行き来も可能です。

今回お示しました課題は、各学校で出されている課題と組み合わせることや、課題を変更していただくなど、学校の実情に合わせて御活用いただければと考えております。また、学校再開後も必要に応じて授業の場面でも御活用いただくことも可能です。

学校再開後に、児童生徒が元気に登校し、学ぶ意欲を少しでも高く持って学校生活に取り組むことができるよう京都府教育委員会としても先生方と一緒に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。